

会社概要

商号	株式会社和井田製作所 (英文社名: WAIDA MFG. CO., LTD.)
所在地	〒506-0824 岐阜県高山市片野町2121番地
設立	1946年10月22日
資本金	8億4,330万円
従業員数	171名(連結)
連結子会社	和井田友嘉精機股份有限公司(台湾)

役員

代表取締役会長兼社長	和井田 光 生
代表取締役副社長	久 保 朝 義
専務取締役	森 下 博 典
取締役	松 村 忠 典
取締役	比 良 謙 吾
取締役(監査等委員)	田 村 孝 至
取締役(監査等委員)	渡 邊 一 (弁護士)
取締役(監査等委員)	山 下 英 一 (税理士)

(注) 渡邊一氏及び山下英一氏の両名は、社外取締役であります。  
両名を独立役員として指定し、東京証券取引所に届け出ております。

株式の状況

発行可能株式総数	24,000,000株
発行済株式の総数	7,028,000株(自己株式575,022株を含む)
株主数	3,301名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
和井田 光生	434,253	6.72
和井田 倅生	390,060	6.04
株式会社十六銀行	321,300	4.97
株式会社三菱UFJ銀行	321,000	4.97
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	319,400	4.94
和井田 叔子	234,000	3.62
MSIP CLIENT SECURITIES	168,500	2.61
和井田製作所従業員持株会	158,700	2.45
和井田 克子	121,200	1.87
和井田 雅生	120,800	1.87

(注) 持株比率については、自己株式(575,022株)を控除して算出しております。

株式分布状況

○株式数構成比



○株主数構成比



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内
単元株式数	100株
上場金融商品取引所	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)
公告方法	電子公告 アドレス: <a href="https://www.waida.co.jp/">https://www.waida.co.jp/</a> ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所	〒460-8685 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
・未払配当金の支払いについて	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

お問い合わせ先 株式会社 和井田製作所 経営企画室  
〒506-0824 岐阜県高山市片野町2121番地  
TEL:0577-32-0390 FAX:0577-37-0020 URL <https://www.waida.co.jp/>

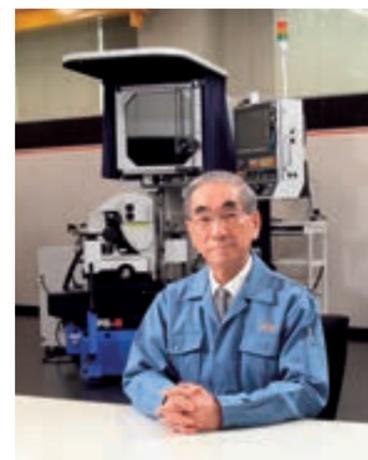


第93期 株主通信  
(上半期のご報告)

2021年4月1日 ▶ 2021年9月30日

飛騨国分寺 推定樹齢1250年の大銀杏(岐阜県高山市)

ごあいさつ



平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。  
第93期上半期(2021年4月1日から2021年9月30日まで)の当社グループは、前年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、国内外の市況の回復を受け、前年同期比で増収増益となりました。しかしながら、世界的な海上輸送網の混乱などの影響により、期初計画に対しては売上・利益ともに未達という結果となりました。  
感染症リスクの下、様々な不安定要因が存在し見通しが難しい状況が続きますが、上半期に顕在化した課題への対応を進めるとともに、今後起こりうるリスクに対しても迅速に対応できるよう体制を強化し、業績の維持に努めてまいります。  
株主の皆様におかれましては、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長兼社長 和井田 光生

## 第93期上半期の概況

第93期上半期（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の当社グループを取りまく市場環境は、新型コロナウイルス感染症の拡大（以下「コロナ禍」という）の影響を受けつつも、各国政府による経済立て直しに向けた施策により急速に回復してまいりました。特に、年初から中国市場で活発な動きが見られたことから、受注については期初の計画を上回る水準で推移しました。

しかしながら、輸出管理の厳格化を進めた影響に加え、コンテナ不足や港湾業務の停滞などコロナ禍の影響による海上輸送網の混乱が続いたことにより、第1四半期は出荷計画に大きな遅れが生じ、売上・利益ともに前年同

期を下回る結果となりました。

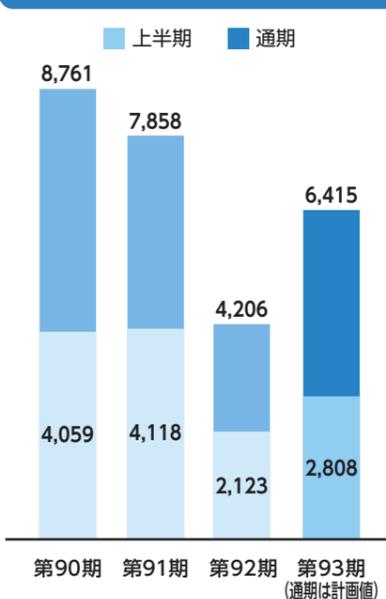
第2四半期では、この遅れを取り戻すべく輸出管理業務の一層の効率化や船便手配の前倒しを進めるなどの対策を講じてまいりましたが、海上輸送網の混乱が続き出荷計画の遅れを解消しきれなかったことから、上半期業績は目標未達となりました。

以上の結果、売上高は2,808百万円、経常利益は415百万円、当期純利益は274百万円となりました。

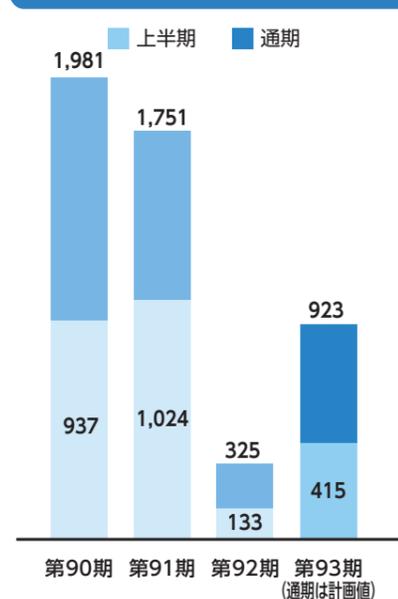
これは、前年同期比では売上高が32.3%増、経常利益が210.7%増となっておりますが、期初計画との対比では、売上高が10.5%減、経常利益が15.0%減となります。

## 業績ハイライト

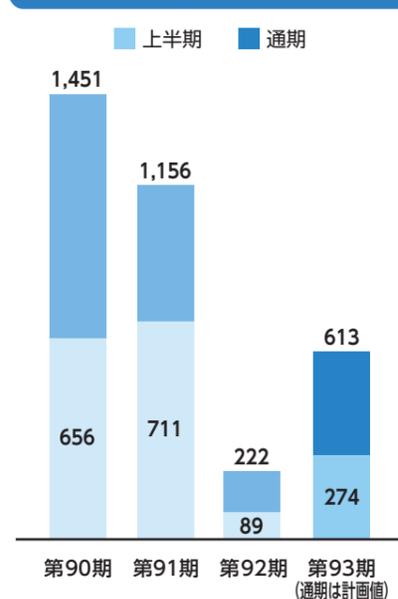
売上高 (単位:百万円)



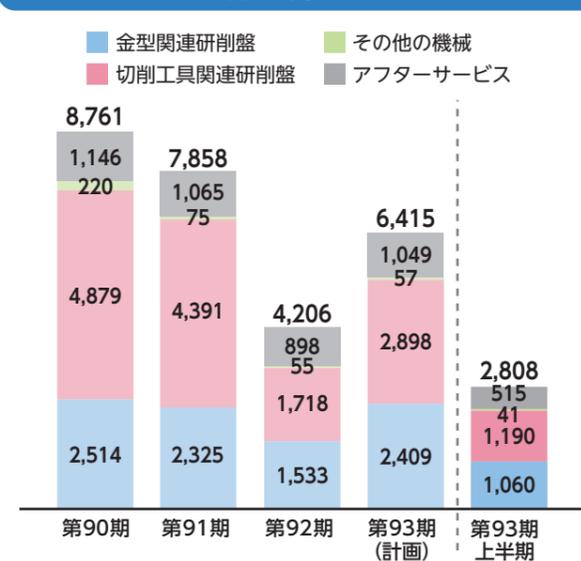
経常利益 (単位:百万円)



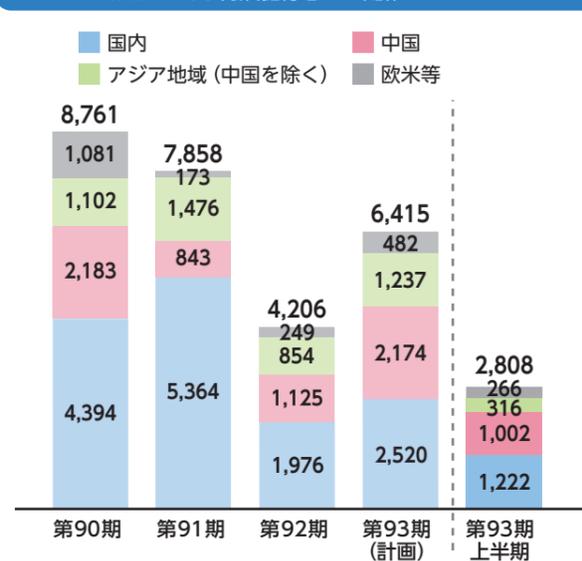
当期純利益 (単位:百万円)



品目別売上高 (単位:百万円)



地域別売上高 (最終据付地にて集計) (単位:百万円)



## 第93期の見通し

第93期下半期（2021年10月1日から2022年3月31日まで）の市場環境は、コロナ禍の影響が長期化する中、好悪材料が交錯しつつも国内外において経済活動を活性化する動きが継続するものと想定しております。

当社の受注に関しましても、一進一退を繰り返しておりますが、回復基調は当面持続するものと見通しております。

一方で海上輸送網の問題は、一時期のコンテナ不足は解消に向かいつつあるものの、景気改善による海運需要の急拡大により、運賃の高騰や船便日程が不安定な状況が続いております。

また、コロナ禍の影響や中国における電力不足の問題により、部材・部品調達に関わるサプライチェーンも不安定な状況が拡大しつつあります。

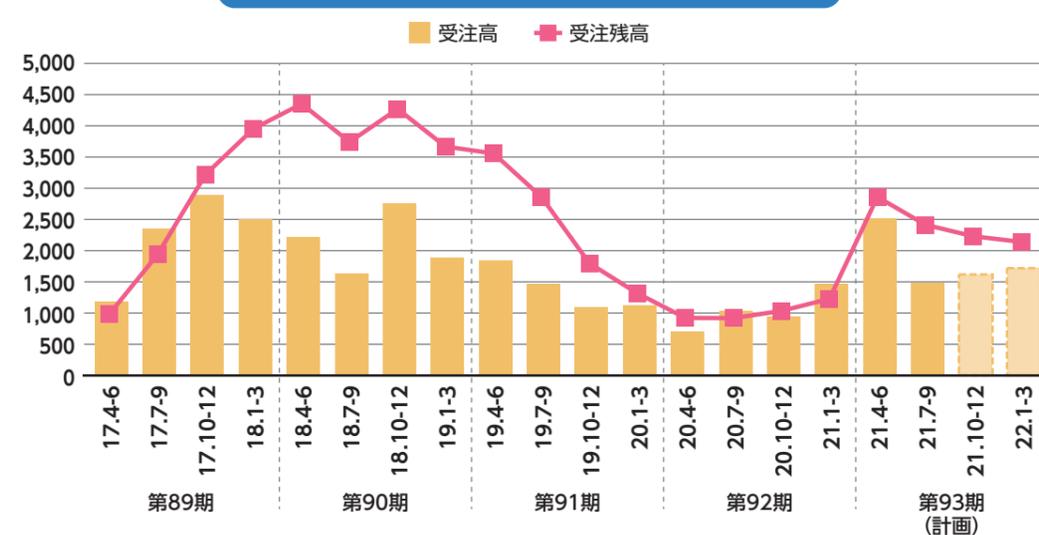
これら下押し要因に対し、輸出案件について船便手配を含む出荷計画の管理をさらに強化するとともに、部材・部品調達については代替品の検討や調達ルートの見直し、高リスク品の先行手配などの対応を進め、影響の軽減に努めております。

しかしながら、一定の影響は避けられない見通しであることから、下振れ要因を織り込み、期初に発表した通期業績予想の見直しを行っております。

見直しにより第93期通期の売上高は6,415百万円、経常利益は923百万円、当期純利益は613百万円となる見通しです。

なお、配当金につきましては、期初に公表いたしました計画を据置き、第93期中間配当金は1株につき15円、また、第93期期末配当金は1株につき15円、年間では1株につき30円を予定しております。

受注高・受注残高の推移 (単位:百万円)



## トピックス

### 欧州で内覧会を開催いたしました

海外で開催される展示会について、コロナ禍により出展見合わせや国内から現地への要員派遣の見送りなどの影響が長く続いておりました。

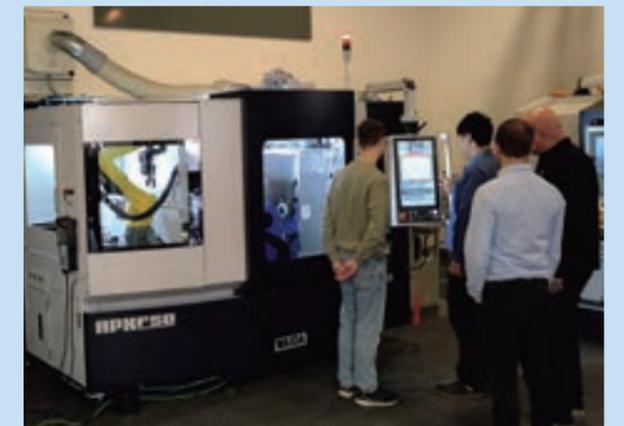
しだいにウィズコロナ下での経済活動再開の動きが強まり、一定の条件下で渡航条件が緩和されてきたことから、この度欧州で当社製品の展示会を開催いたしました。

2021年10月の開催期間中、新製品の情報提供やデモンストレーションを行い、多くのお客さまから高い評価をいただきました。

ワクチン接種や入出国時の隔離など、依然として様々な制約はありますが、今回の展示会を皮切りに当社の重点施策である欧州市場へのアプローチをさらに加速させてまいります。

【出展機種】 全自動5軸複合インサート研削盤 APX-F50

5軸制御により複雑形状の加工に対応した、切削工具関連研削盤の最上位モデルです。



※ 記載金額は、表示単位未満の端数は切り捨てて表示しております。

※ 本株主通信では「親会社株主に帰属する当期純利益」及び「親会社株主に帰属する四半期純利益」を「当期純利益」として表示しております。